

会議名	関東畜産学会・食品残さ飼料化行動会議東日本シンポジウム
開催日時	平成18年11月15日(水)13:00~17:00
開催場所	三井ガーデンホテル千葉(千葉市中央区中央1-11)
主催者	関東畜産学会 共催; 関東農政局、(社)中央畜産会、(社)配合飼料供給安定機構、 農研機構支援センター
参加人数	約300名(満席)半数以上が民間の産業廃棄物・機械装置・飼料系と見られ、関東畜産学会や養豚関係者は少なかった。(参加者名簿参照)
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>標記のシンポジウムにおける下記の講演・報告から収集した畜産技術開発のための関連情報を報告する。</p> <p>挨拶; 関東畜産学会長、農水省畜産振興課長</p> <p>1) 基調講演;</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品リサイクル法改定と飼料化の重要性(農水省総合食品局; 島津 久樹) <ul style="list-style-type: none"> (1) 食品リサイクル制度の見直し: 両省審議会の合同開催、年内に最終取りまとめ。 (2) 飼料化の取り組み: 飼料化優先、次に肥料化、熱利用は飼・肥料化困難な場合。 (3) 行政も連携構築。 ・安全性確保のガイドライン(農水省生産局; 松尾) <ul style="list-style-type: none"> 平成18年8月成案、通知。: 原料の定義、収集・分別・運搬・保管・出荷・使用の条件。 <p>2) 技術報告; 座長: 名古屋大学; 淡路 和則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おからの飼料利用の新展開(日本大学; 佐伯 真魚) ・コンビニ残さによる豚の肥育(畜草研; 川島 知之) ・リキッドフィーディングにおける経営評価(千葉県畜総研; 鈴木 一好) <p>3) パネルディスカッション</p> <p>「産学連携に求められる課題」; 座長; 畜草研 寺田 文典</p> <p>パネラー; 入江 正和(宮崎大)、石井 俊祐(ブライトピッグ)、 松尾 佳典(農水省畜産振興課)、岡本 邦義(山崎パン)、 長谷川 潤一(食総研)</p> <p>(パネラーの意見陳述) 養豚業者・食品残さ排出・シンクタンク・研究者・行政の立場から。:</p> <p>(検討のポイントを「需要と供給」に絞って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の重要性(連携、所在、技術、ネットワーク、資源量、消費者意識) ・コーディネイター ・排出者側の意識と工場設備改革が必要
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる課題	規模の小さい各分野の企業・経営者が手軽に安く利用できる飼料の所在・成分・給与についての公的な「飼料情報センター」の構築について。

3. その他の発表 課題で関心のあ ったもの	特になし。
4. 今後研究開発 課題採択に当た って参考とすべ き事項等	地域振興・地産地消型の比較的狭い範囲の地域連携システムの構築に関連する調査、研究課題の採択。
5. 会議の所感	出席者の顔ぶれから、この問題に関連する装置・システム関連の規模の大きい企業の関心が以前よりやや薄れているように感じられた。
報告者	針生 程吉